嬉野市　広報・広聴事業

MURAKAMI PRESS
ムラカミプレス

嬉野市役所　総合戦略推進部　広報・広聴課

MURAKAMI PRESS
ムラカミ プレス

事業概要

　これまでの広報・広聴事業とは趣向を変え、市の実施する事業や活躍している市民団体等を村上市長自らが取材し、参加者や市民団体からご意見をお聴きするとともに、そのご意見に関する市長の見解を市民に広報することにより、市政のスピードアップやより市民に近い施策づくりにつなげていく。

Point

市長の前職が「新聞記者」である強みを活かし、プロの取材により市民のホンネを引出し、市民が本当に知りたい情報をタイムリーに届けていく。

メインキャスター

MURAKAMI DAISUKE

MURAKAMI PRESS ムラカミ プレス

事業内容

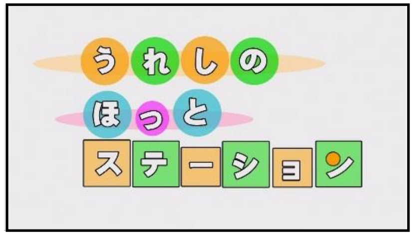
　市長が市の事業や各種団体の主催事業などに自ら参加する形で取材し、参加者と同じ目線でインタビューを行う。
その模様は行政放送「ほっとステーション」の特集コーナーとして月１回程度放送し、その番組は、取材で得たご意見に市長が「ムラカミ記者」としての見解をコメントする形での放送とする。

市長自らがマスコミ目線と自治体の長の目をハイブリッドさせた視点で取材することで、市の取り組をより掘り下げた行政情報発信とすることができる。また、市民のホンネを取材することで、新たな行政課題を浮き彫りにする効果も期待される。

インタビュー
（取材）

MURAKAMI
記者（市長）

コメント



番組編成

市民への広報

番組構成（例）

オープニング（30秒）

オープニングでは、紹介する事例について、市長がどんな切り口でこの事例を選んだのかを説明。

取材映像（１分）

取材映像は、テロップなどでわかりやすく。できるだけ市民の声を取り上げる。

コメント・エンディング（30秒）

取材で得たご意見に対する市長としてのコメントを入れ、番組のエンディング。

Point

市長がキャスターとして直接市民に訴えかける番組構成とし、コーナーの注目度を上げる。アシスタントをつけてよりわかりやすく伝えることも検討。

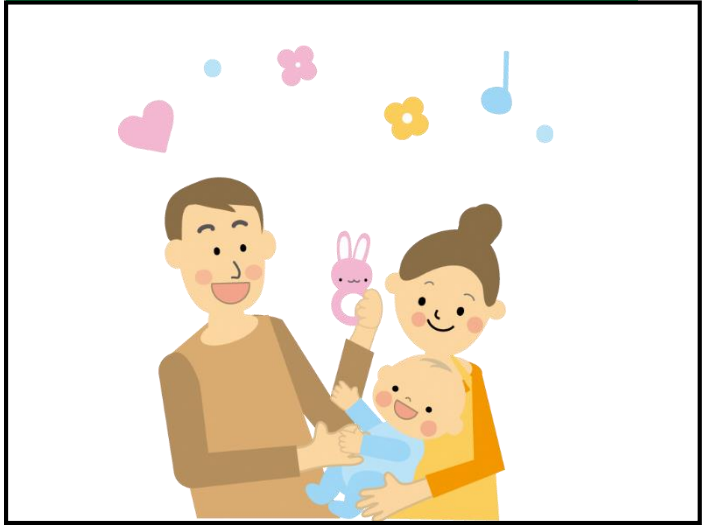
取り上げるテーマ（例）

MURAKAMI PRESS ムラカミ プレス

部活がなくなる？ 中学生スポーツのいま。

全国的に、少子化や教師の働き方改革などの要因で減少傾向にある中学部活動。嬉野市も例外ではありません。
そんな中、部活廃止を受け、地域の力で活動の場を作ったスポーツクラブがあります。部活動から社会体育転換へのチャレンジを通して見えてくる、中学生のスポーツ活動の未来とは。

ＩＣＴ×母子手帳！？ 子育てにもスマホを。



今やありとあらゆるものがＩＣＴによって便利になってきました。
嬉野市では母子手帳の情報をスマホアプリで提供するサービスを開始しました。
ＩＣＴで子育てがどう変わるのか。
利用者の声から行政のＩＣＴ活用のヒントを探ります。

各課から紹介された事業や団体などから、市長がテーマをチョイスし、取材によって取組の広報や業務改善、行政課題の掘り起こしに繋げる。この過程を放送することにより、事務改善の見える化にも。